

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:平成31年 3月 1日

事業所名 Kids Labo123

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		グループに分けて活動支援を行っている。	定員は適切であるが、利用者数に対するスペースが限られているので、グループ分けや活動場所を工夫する。
	2	職員の配置数は適切である	○		人数の多い日など多く配置している。	安全面やより適切な支援のため、今後も人数や状況に応じて適切に配置する。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		スケジュールや手順の視覚化を図っている。	建物自体の玄関にはスロープがあるが、事業所の入口にはないため、必要な場合は職員が対応している。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日清掃を行い、清潔な空間に努めている。	引き続き、清掃や換気等に努める。活動ごとにスペースを設け、活動しやすい環境に努める。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		打合せや振り返りを行っている。	職員間の共有・参画をあらに進めていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価を実施し、意向を踏まえて改善につなげている。	課題を共有し、よりよい支援につなげる。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPで公開している。(会報でも公開予定)	課題を共有し、よりよい支援につなげる。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価はできていない。	検討課題
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修の機会を確保している。	伝達できていない外部研修もあるので、時間を確保する。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		アセスメントや保護者への聞き取りを行い、支援計画を作成している。	よりよいアセスメントを行い、ニーズや課題の把握に努める。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	・独自のチェックリストを用いて、カリキュラムや支援計画作成に生かしている。 ・保護者から標準化された検査の結果をいただき、療育に役立てている。	今後も様々な方法で適応行動の状況把握に努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		主に発達支援の面から具体的な目標や支援内容を記載するよう努めている。	支援に必要な具体的な内容となるよう、常に見直していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		その日の利用者の支援目標と支援内容を毎日プリントアウトして共有し、支援に臨んでいる。	今後も常に支援計画を意識して支援を行うよう務める。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		トレーニング内容等複数で立案している。	今後もよりよいプログラムとなるようチームで検討していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎回工夫して活動に取り組んでいる。	より楽しく個を伸ばすプログラムとなるよう常に改善を図っていく。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		支援計画以外に個に応じた運動カリキュラムを作成している。	小集団活動の中に個に応じる部分を取り入れる。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間で時間の流れや活動内容、役割分担等について打合せを行っている。	今後も打合せを大切にしていく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日振り返りを行い、記録するとともに必要に応じて共有している。	共有の時間をしっかり確保していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用者の様子や支援について毎日記録し、次回につなげている。	今後も継続していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との面談を取り入れている。	計画を立て、早め早めに行っていく。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	必要に応じて担当指導員も参加する。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		・相談支援専門員等との連携を行っている。 ・不登校等支援連絡会に参加し関係者と連携している。	さらに連携を広げる必要がある。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	保護者からの情報提供をもとに対応している。	必要に応じて積極的に連携していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	すぐに連絡できるようにしているが、まだ実際に対応したことはない。	必要に応じて積極的に連携していく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		必要に応じて積極的に連携していく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		必要に応じて積極的に連携していく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		エルムおおさかななどの研修に積極的に参加している。	専門機関等との連携やより積極的な研修等を進めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		必要に応じて検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		積極的に参加している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎や面談の機会を利用して行っている。	職員一人一人の、子どもの発達の状況把握能力の向上を図る。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○	ペア・トレ導入はできていないが、研修等の情報発信を行っている。	家庭でできるトレーニングなどの発信もしていきたい。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。	わかりやすい説明を心がける。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		面談を行って説明し同意を得ている。	説明・同意をより計画的に進めていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		悩み等に対する相談には随時応じ助言を行っている。	定期的な面談を進める。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会の開催はできていない。	検討課題
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時相談に応じ、迅速に対応している。	今後も継続し、より適切な助言ができるよう対応力を向上させる。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		発行できているが、回数が少ない。	定期的な発信に努める。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		配慮している。	今後も十分に留意していく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかりやすくいい対応を心がけている。	さまざまな対応を想定しておく。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	中央区の福祉フェスタに実行委員として参加。招待行事等は行っていない。	行事への招待等は難しい問題がある。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		マニュアルを策定し常置しているが、保護者への積極的な周知ができていない。	周知していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を実施している。	今後も行っていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。	今後も継続する。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。特におやつに留意している。	今後も継続する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を記入し共有している。	今後も継続する。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待につながらないよう、適切に対応している。	今後も継続して十分留意し、虐待防止に努める。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○	児童発達支援計画に身体拘束について記載していない。	事例はないが、説明や記載等について改善していく。

チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
--------	----	-----	---------	--------------------------

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成 31年 3月 1日

事業所名 Kids Labo123

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		グループに分けて活動支援を行っている。	定員は適切であるが、利用者数に対するスペースが限られているので、グループ分けや活動場所を工夫する。
	2 職員の配置数は適切である	○		人数の多い日など多く配置している。	安全面やより適切な支援のため、今後も人数や状況に応じて適切に配置する。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		スケジュールや手順の視覚化を図っている。	建物自体の玄関にはスロープがあるが、事業所の入口にはないため、必要な場合は職員が対応し
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		打合せや振り返りを行っている。	職員間の共有・参画をあらに進めていく。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		評価を実施し、意向を踏まえて改善につなげている。	課題を共有し、よりよい支援につなげる。
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPで公開している。(会報でも公開予定)	課題を共有し、よりよい支援につなげる。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価はできていない。	検討課題
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修の機会を確保している。	伝達ができている外部研修もあるので、時間を確保する。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントや保護者への聞き取りを行い、支援計画を作成している。	よりよいアセスメントを行い、ニーズや課題の把握に努める。
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	・独自のチェックリストを用いて、カリキュラムや支援計画作成に生かしている。 ・保護者から標準化された検査の結果をいただき、療育に役立てている。	今後も様々な方法で適応行動の状況把握に努める。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		トレーニング内容等複数で立案している。	今後もよりよいプログラムとなるようチームで検討していく。
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎回工夫して活動に取り組んでいる。	より楽しく個を伸ばすプログラムとなるよう常に改善を図っていく。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○	来所日に応じたきめ細やかな設定支援までできていない。	必要に応じて、今後検討していく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		支援計画以外に個に応じた運動カリキュラムを作成している。	小集団活動の中に個に応じる部分を取り入れる。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員間で時間の流れや活動内容、役割分担等について打合せを行っている。	今後も打合せを大切にしていく。
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日振り返りを行い、記録するとともに必要に応じて共有している。	共有の時間をしっかり確保していく。
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		利用者の様子や支援について毎日記録し、次回につなげている。	今後も継続していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		保護者との面談を取り入れている。	計画を立て、早め早めに行っていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		主に自立支援や身体・運動機能の向上、学習支援、良さを伸ばす支援などを考え、組み合わせている。	支援に必要な具体的な内容となるよう、常に見直していく。
関係機関や保護者との連携	20	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	必要に応じて担当指導員も参加する。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		随時連絡調整を行っている。	今後も積極的な情報交換を行う
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	すぐに連絡できるようにしているが、まだ実際に対応したことはない。	必要に応じて積極的に連携していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		必要に応じて積極的に連携していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供している	○		相談支援専門員や保護者とも連絡調整を行いながら進めている。	今後も必要に応じて積極的に連携を進める。
	25	児童発達支援センターや発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		エルムおおさかななどの研修に積極的に参加している。	専門機関等との連携やより積極的な研修等を進めていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		必要に応じて交流を検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		積極的に参加している。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎や面談の機会を利用して行っている。	職員一人一人の、子どもの発達の状況把握能力の向上を図る。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	ペア・トレ導入はできていないが、研修等の情報発信を行っている。	家庭でできるトレーニングなどの発信もしていきたい。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に説明している。	わかりやすい説明を心がける。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		悩み等に対する相談には随時応じ助言を行っている。	定期的な面談を進める。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	保護者会の開催はできていない。	検討課題
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		随時相談等に応じ、迅速に対応している。	今後も継続し、より迅速適切な対応に心がける。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		発行できているが、回数が少ない。	定期的な発信に努める。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	35	個人情報に十分注意している	○		配慮している。	今後も十分に留意していく。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		わかりやすくていねいな対応を心がけている。	さまざまな対応を想定しておく。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	中央区の福祉フェスタに実行委員として参加。	行事への招待等は難しい問題がある。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを策定し常置しているが、保護者への積極的な周知ができていない。	周知していく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練を実施している。	今後も行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待につながらないよう、適切に対応している。	今後も継続して十分留意し、虐待防止に努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○	児童発達支援計画に身体拘束について記載していない。	事例はないが、説明や記載等について改善していく。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		保護者からの情報提供を受けて確認し、共有している。特におやつに留意している。	今後も継続する。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		事例を記入し共有している。	今後も継続する。